

# 人を育てる エコシステム

中塚雅也

(神戸大学・農学研究科・農業農村経営学)



m\_nakatsuka



# 自己紹介

- 1973 大阪府和泉市生まれ
- 1992 神戸大学農学部 →1996 緑地設計事務所  
1999 神戸大学大学院 =丹波の森協会 (→2004)  
→神戸大学 地域連携センター →食料環境経済学講座  
→UK, Newcastle, Centre for Rural Economy
- 2016 篠山での起業スクール「篠山イノベーターズスクール」開始  
→2019 「神戸農村スタートプログラム」開始
- 専門：「農業農村経営学」

共生型の農業経営

地域自治組織の経営

地域資源（人，モノ，金，情報・知識，社会関係）の管理，

都市・農村連携（地域連携）

<https://researchmap.jp/nakatsukamasaya>

**“人材不足”に悩む農山村**

# “人材”が欲しい

- 高齢化と人口減少の進展による絶対的な人手不足※と、それに伴う農村問題の深刻化
- 人々を強く導くリーダーもしくは、地域を劇的に変える“イノベーター”や起業家の出現への期待の高まり。

「地域づくりは人づくり」

※ 〈注意〉 農業における“補完的人材”の不足

# 人材供給地としての農村（地方）

- 明治期からを振り返っても、戦前戦後期、高度成長期を通して、農村から人材は一貫して流出
- 農村は産業界と都市への人材供給源としての役割を果たしてきたといっても過言でない
- 農業・農村をめぐる内外の情勢の激動と農村リーダー育成や人材育成の必要性に対する指摘は、言葉を換えながら何度も繰り返されている（七戸，1987など）

# “外部人材”への期待の高まり

- 2009年～「地域おこし協力隊」  
(2020年度に任期終了, 6,500人)
- 副業・複業といった新たな働き方の提唱
- 「関係人口」と呼ばれる人々の存在にも注目
- 新型コロナウイルス感染拡大を契機としたU・J・Iターンの動きも活発化。
- 人材をどのように「**獲得**」するかへの関心（獲得競争）

**“人材”とは？**

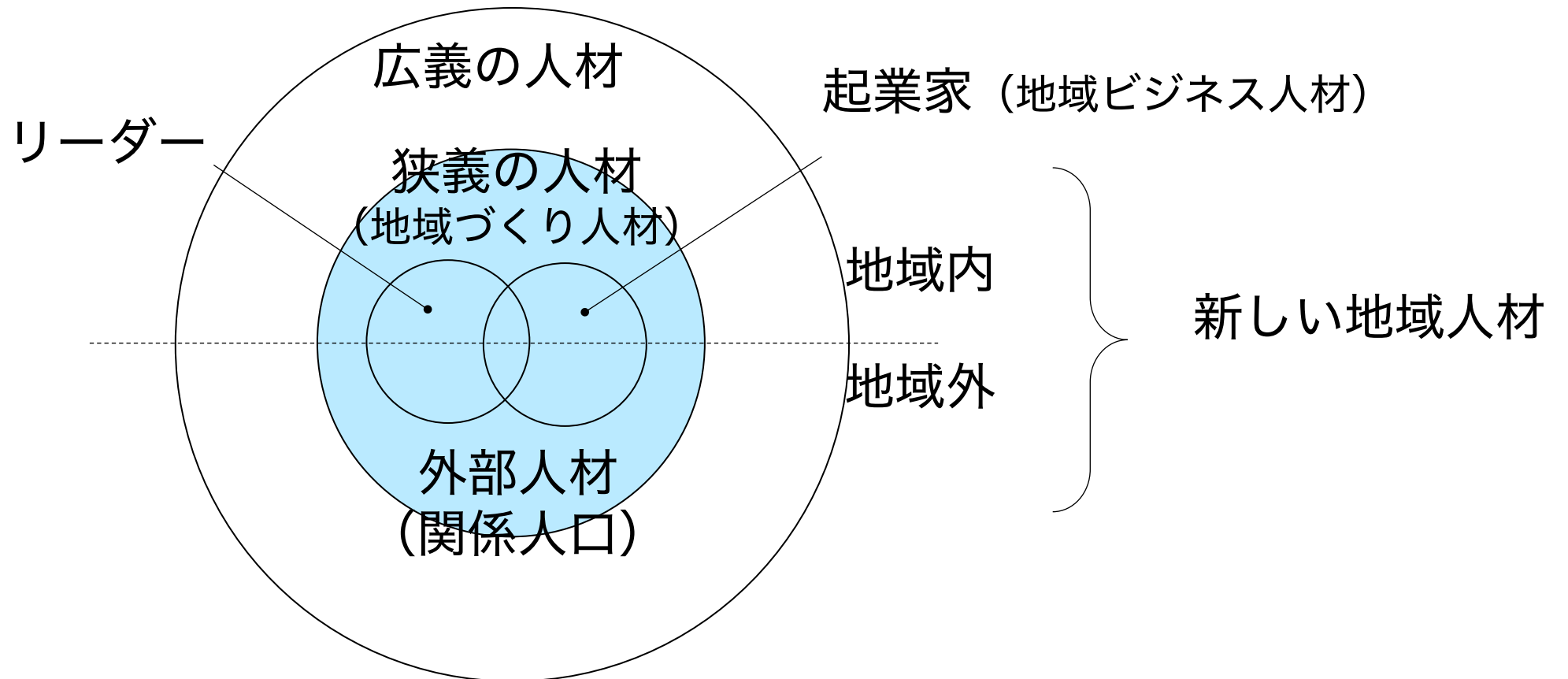
# 人材とは？

- 「才知ある人物。役に立つ人物。人才」
- 活動をおこなうために必要なもの：  
ヒト，モノ，カネ，情報，関係性
- 人は，資材や手段？ →人材でなく「人財」？
- 地域社会においては（地域社会でなくとも），  
人を地域の材料や資源という側面だけで見るべきでない。  
単純な視点で，人を役立つ，役立たないと区別すべきでない



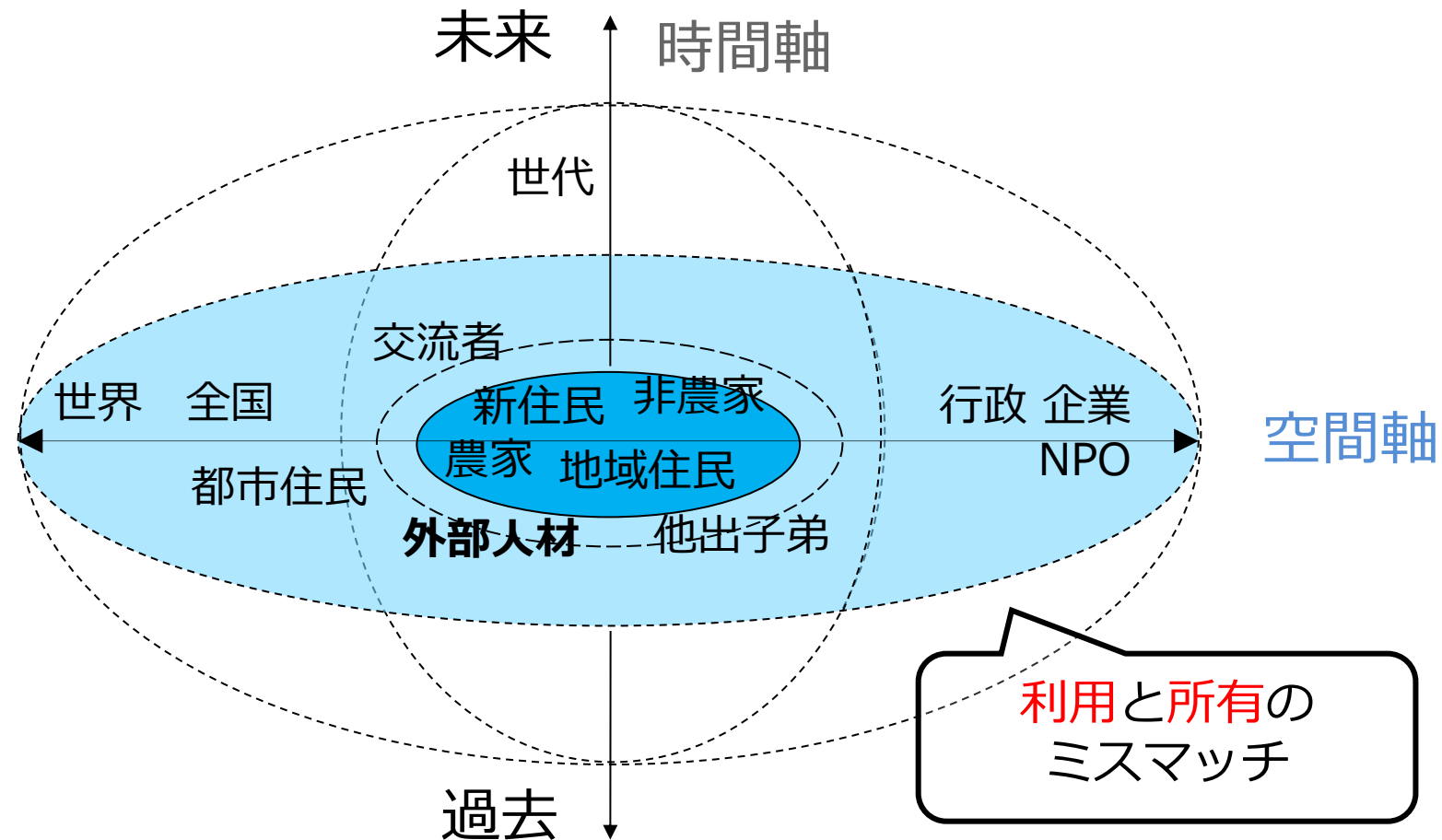
# 地域人材とは

- 主体的な活動をおこない、そこから価値を生み出し、自ら地域社会をつくり、農村の維持・発展に寄与する人々（アクター）



# 経営において、どこまでステークホルダ？

- 空間軸と時間軸
- 多様化する担い手，立体的に拡げて考える必要性



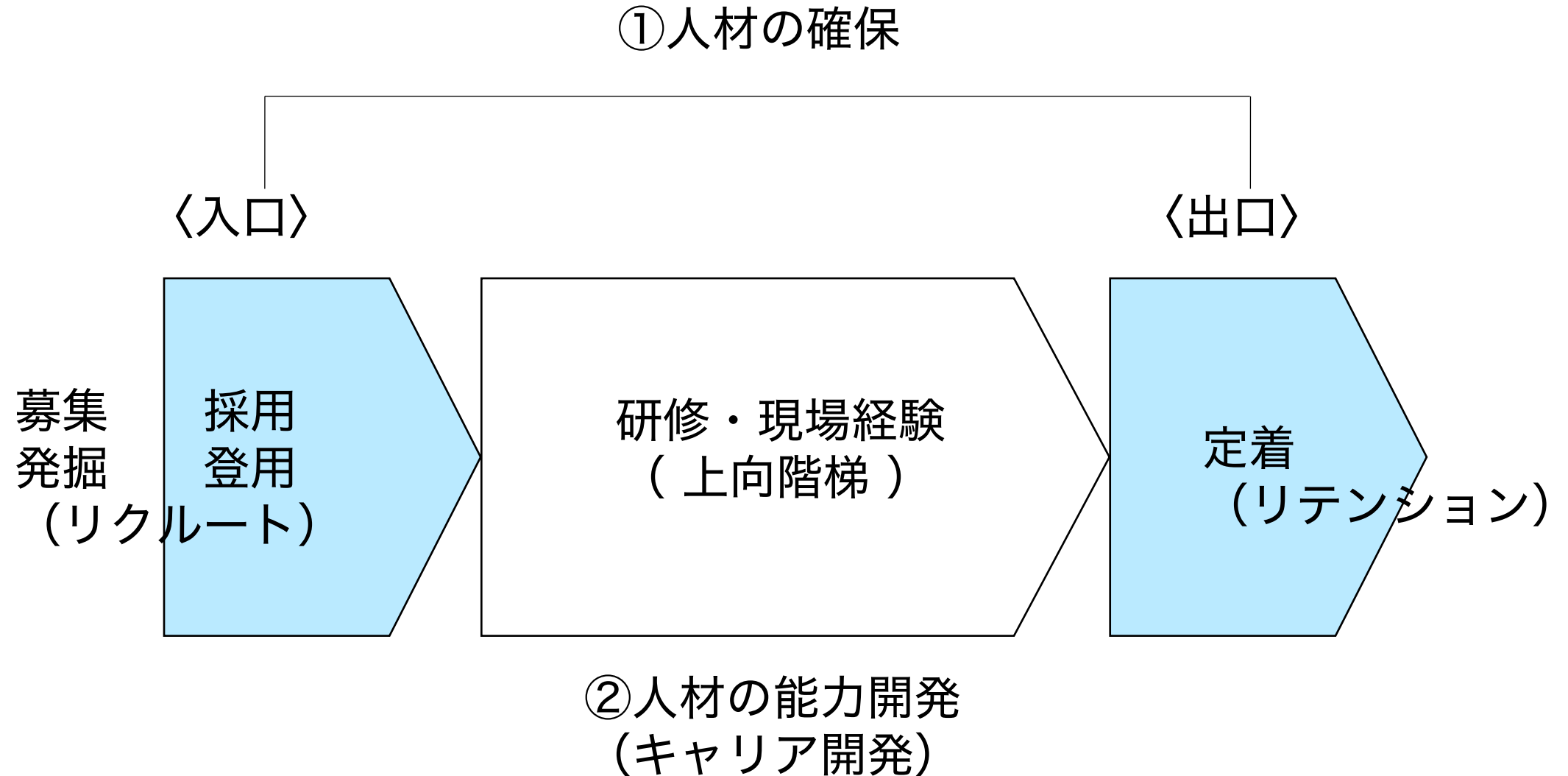
# 地域の人材育成の難しさ

- 「人的資源管理」 Human Resource Management  
“ある組織目標に人の持つ自律性と他律性を統合すること”
- 企業との違い  
管理主体が明確でない：だれが？  
目標が明確でない：何のために？  
  
“どこでどのように住み，働くかは自由”

# 地域への関わる「気持ち」を基本に

- なんのために、地域に関わるか？
- 「モチベーション」への注目
  - モチベーションに応じた役割，フィードバック，評価
  - 古くて新しい「適材適所」（誰にとっての「適」か？）
- コミットメント（地域に関わる気持ちの強さ）
  - どこに住むかより，どんな気持ちか
  - 人口（広義の人材）と人材（狭義の人材）を分けるもの
  - 「接点」が重要
    - ：祭り，共同での農作業，学校行事，自治会活動
    - + ?

# 2つの人材育成活動：確保と能力開発



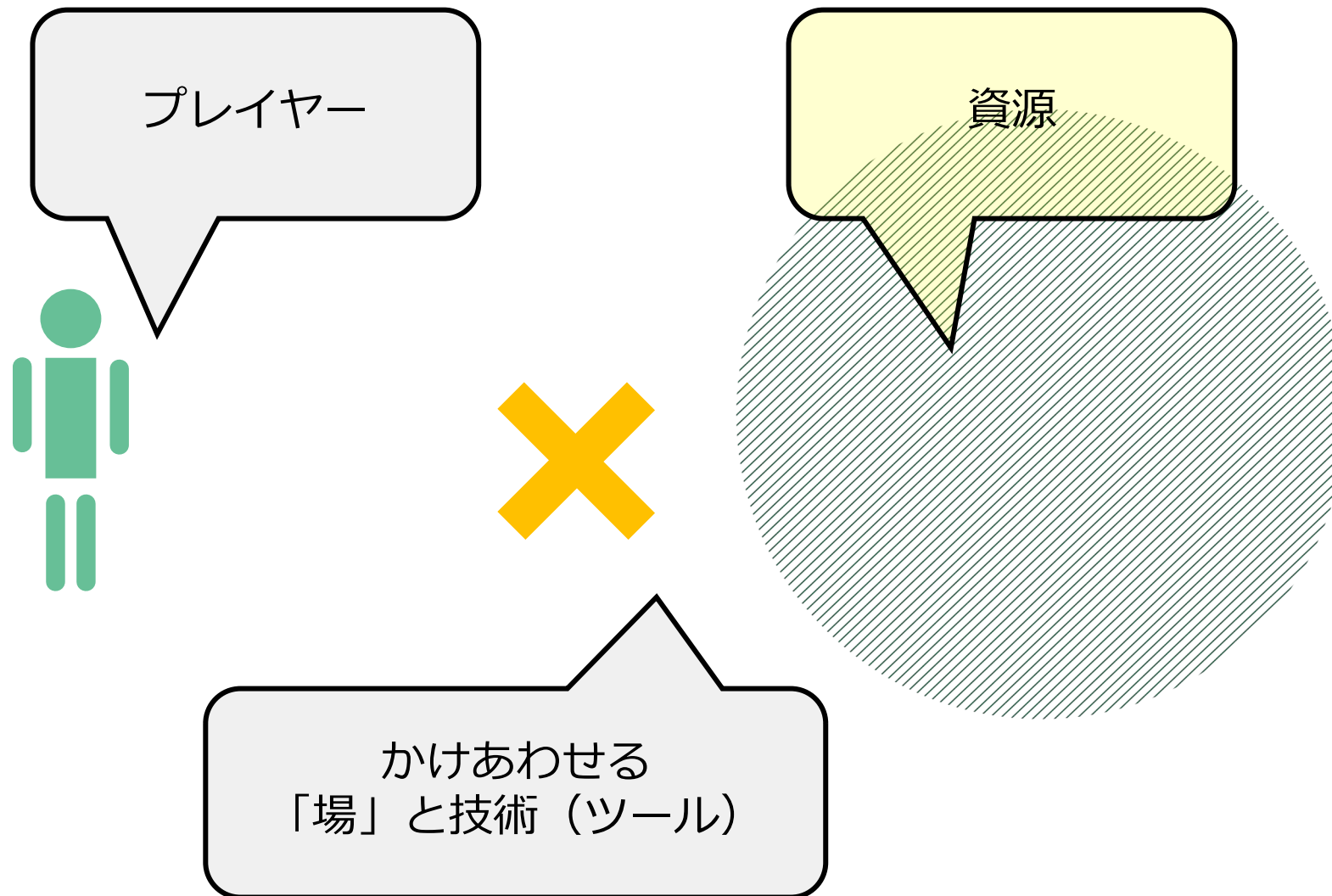
# 人材・地域資源とビジネス創出

# 高齢化，人口減によるメリット？

何がありますか？

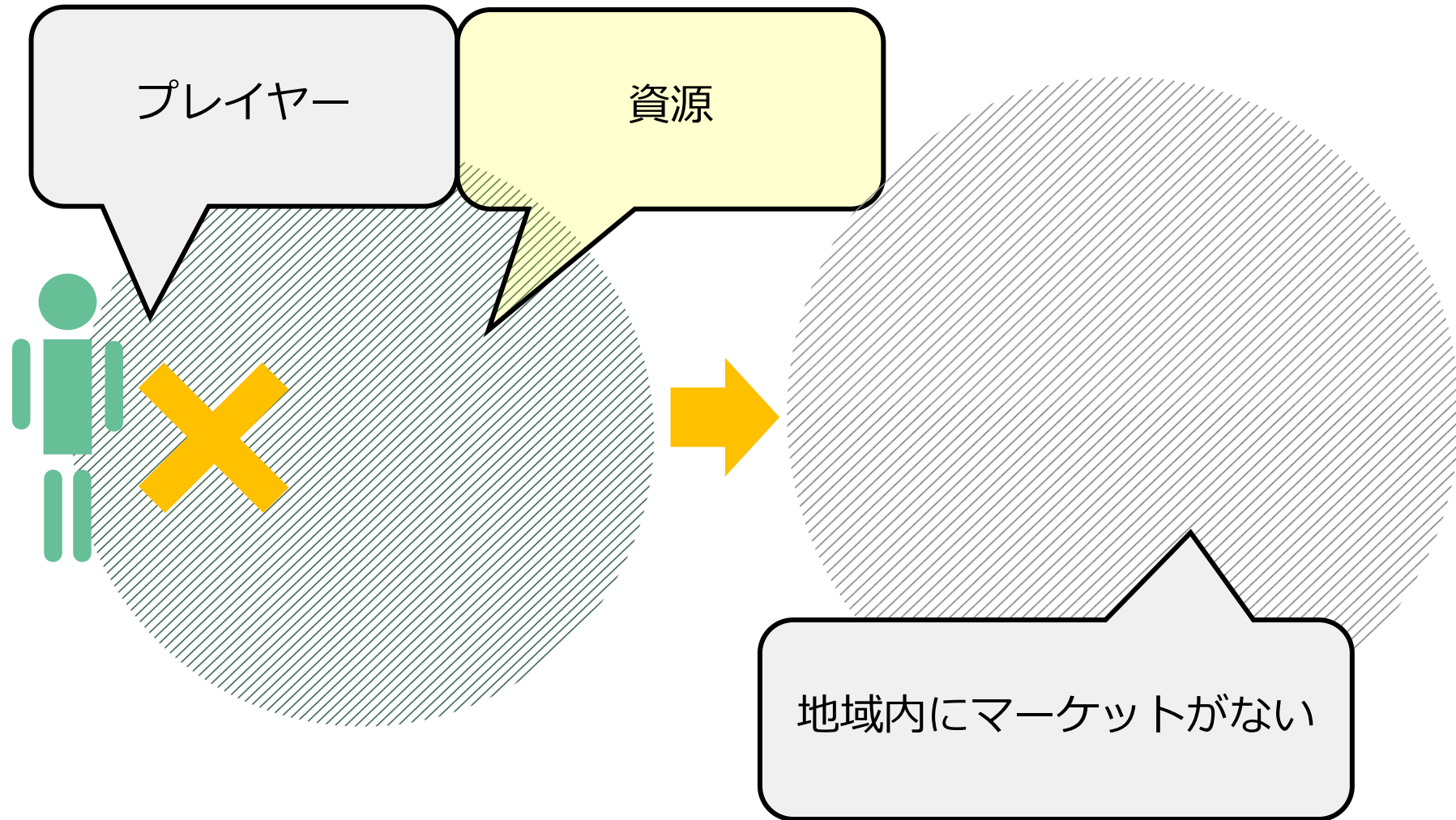
- 地域の担い手がいなくなる = 放置，放棄
    - スペースがあく
    - **資源**が浮いてくる
- ⇒ **一人当たり専有量・面積が増える**  
**ビジネスチャンスが増える**

# 地域の課題 1



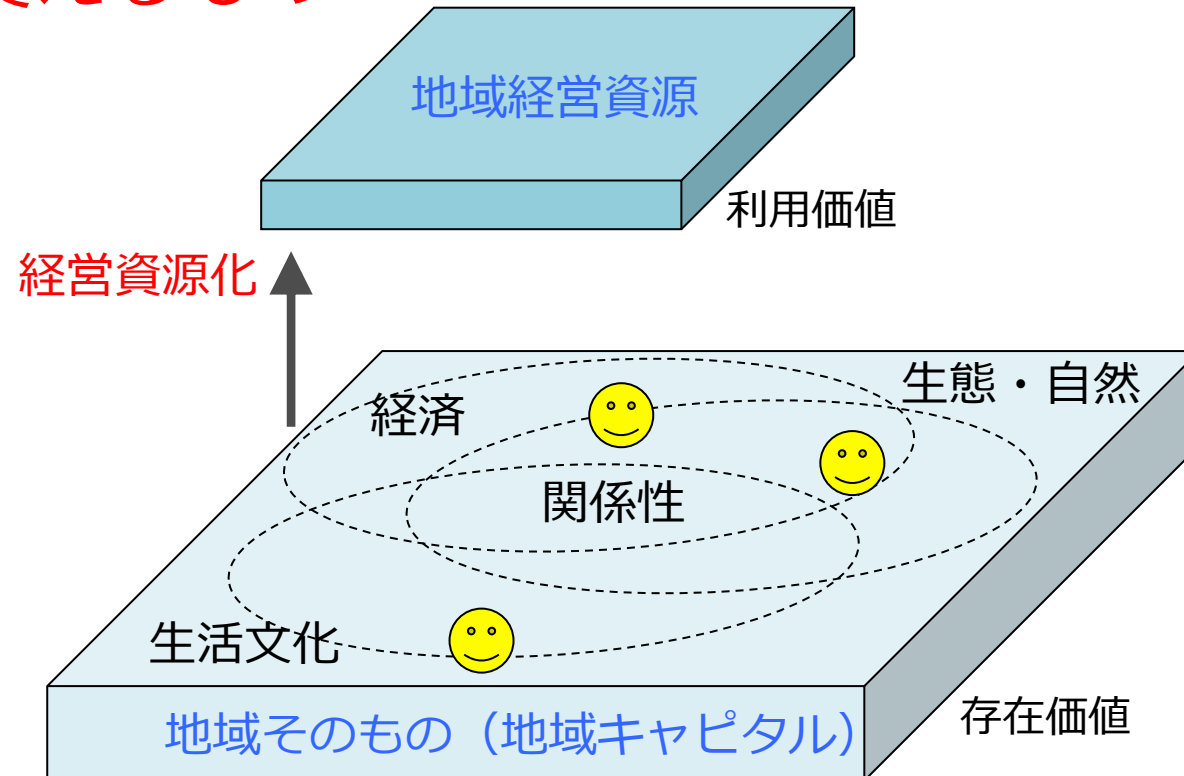


# 地域の課題 2

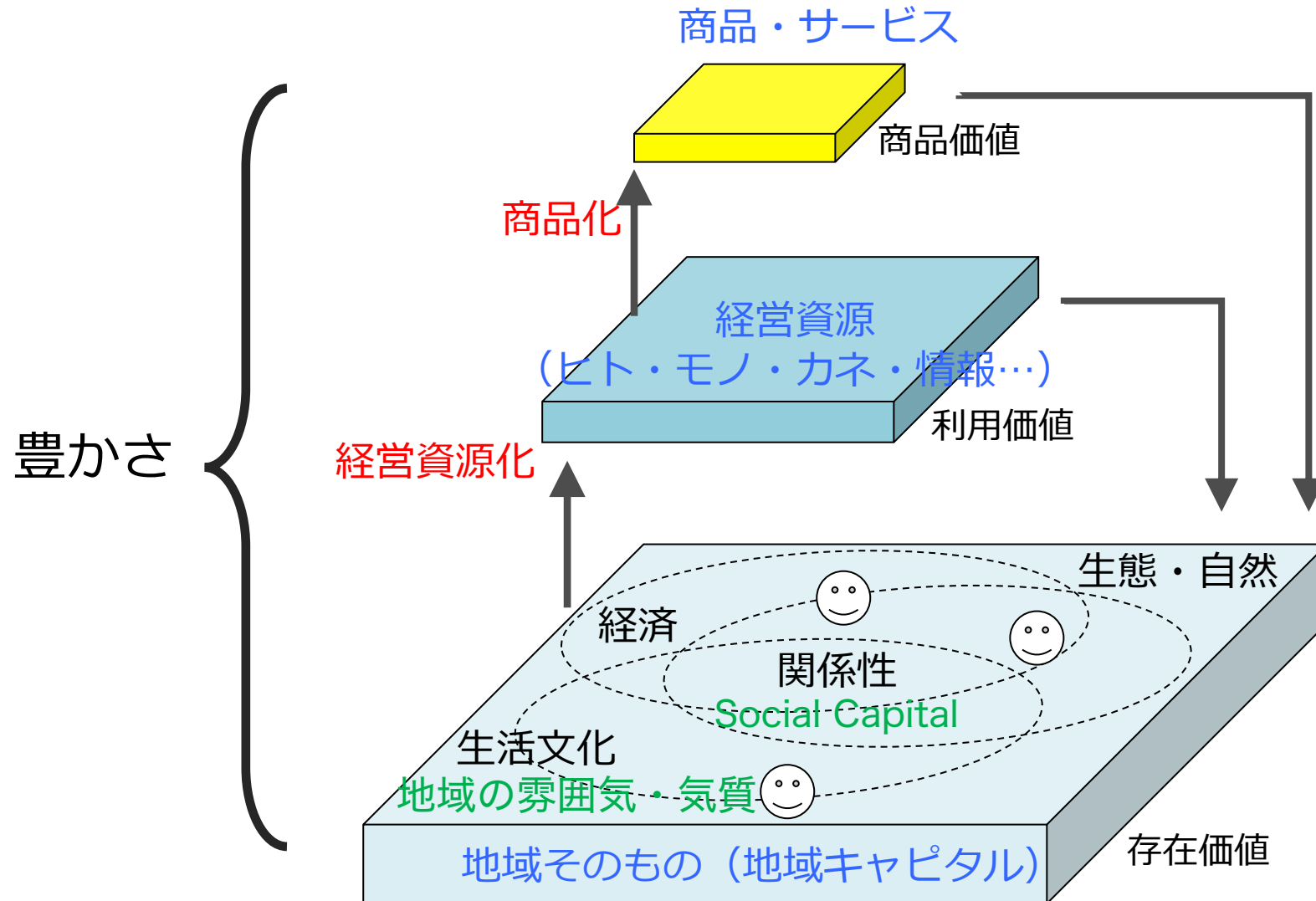


# 地域資源の活用

- どのようなものが地域 ”資源” ？
- 地域資源のやせ細り →使ってこそ維持できる
- 経営的視点からは, “資本” の ”資源”化  
あるもの→使えるもの



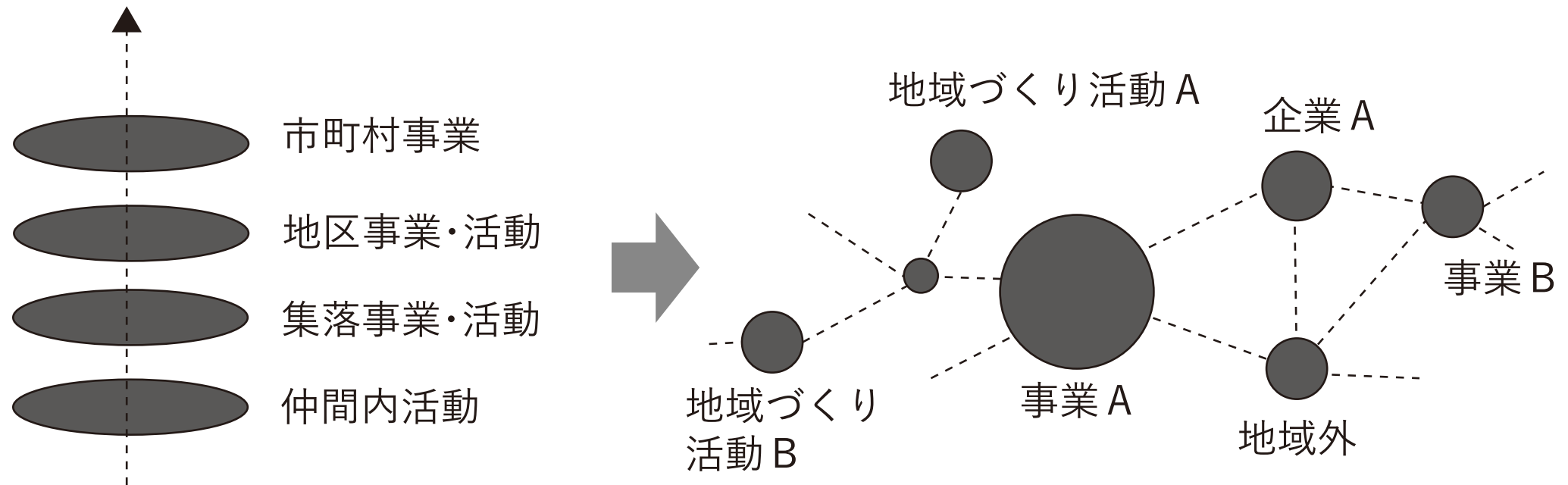
# ビジネス創出と地域の発展



# 人材育成のエコシステム

# 人材育成のエコシステム

- 人材は地域で育てる + → 地域を渡りながら育つ
- 人材はストックでなくフロー
- 人材育成の「生態系」を構築することが重要



上向階段型とネットワーク型の人材育成

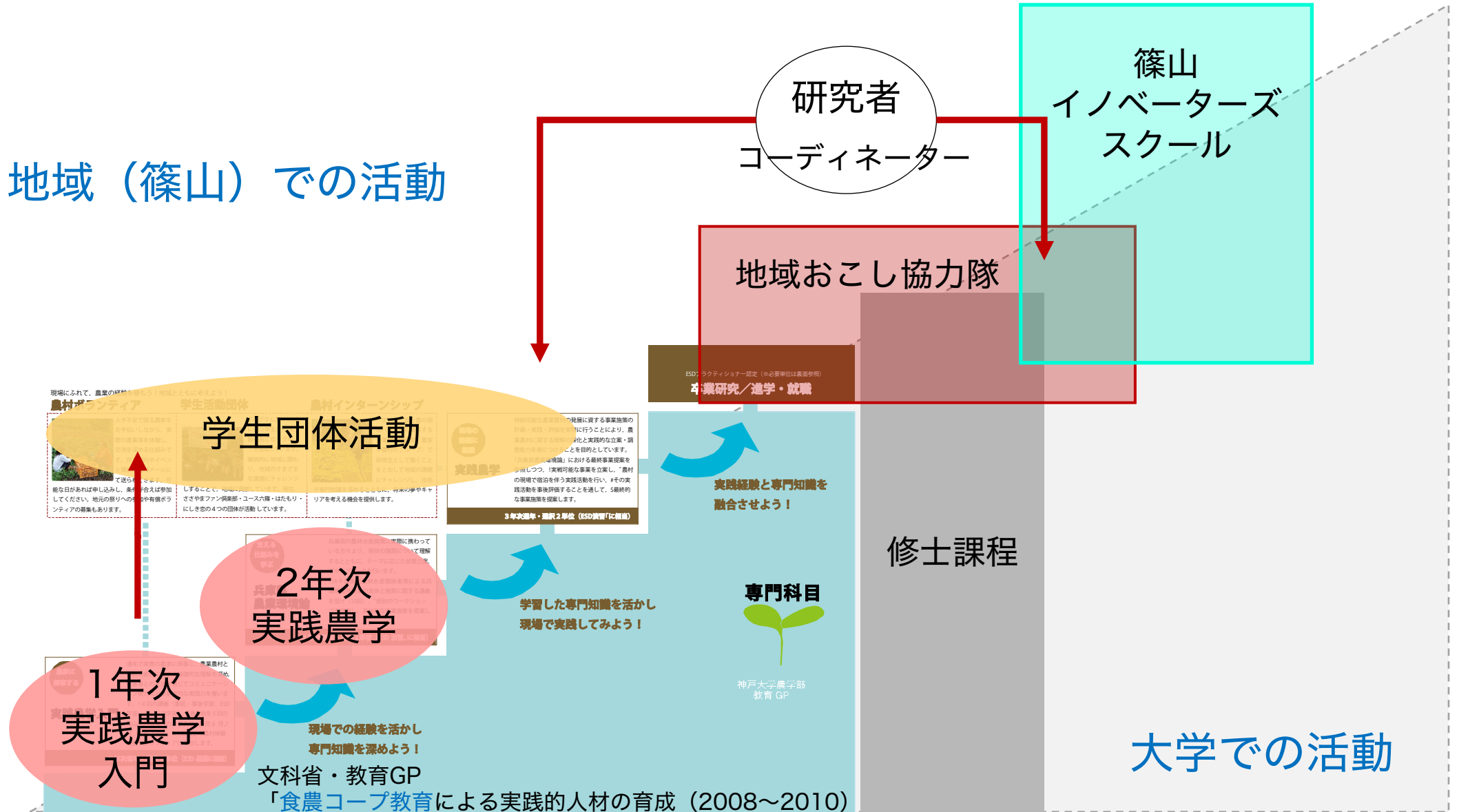
# 兵庫県丹波篠山市における地域人材育成

- 2006/07 神戸大学篠山フィールドステーション開設, 連携協定  
(1949-1966 兵庫農科大学)  
→演習授業の開始
- 大学生の育成や地域づくりの協働だけでなく,  
**地域の人材育成** (起業・継業/移住の促進) への展開  
COC+ (大学) & 地方創生事業 (篠山市)
- JR篠山口駅 (駅舎内の市所有地を改修)  
**神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ**
- 篠山市主催「篠山イノベーターズスクール」  
2016年10月開講



# 教育プログラム（臨界領域の開発）

地域（篠山）での活動



# Rurāl Innovation Lab

KOBE UNIV.  
SASAYAMA

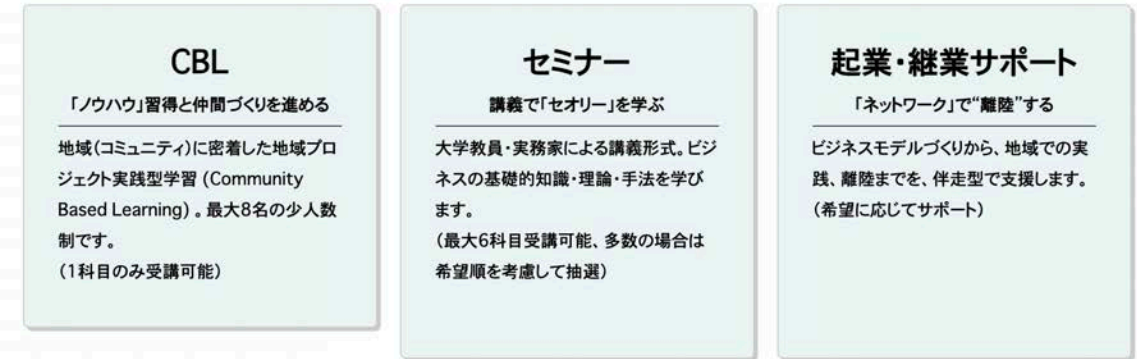
神戸大学・篠山市  
農村イノベーションラボ





# 篠山イノベーターズスクール

- 2016～開始，現在7期目
- 10科目×6コマ  
(4CBL+6セミナー) から選択
- 拠点施設と専従スタッフ
- 受講生の関心 (特性) :  
篠山 (農村) で何かしたい，
- 起業の例 :  
技能職 (映像, 写真) × 農業,  
手に職創業移住 (パン, カレー),  
地域の人起業 (カフェ, ブランド,  
加工品), 宿泊
- 課題 : 協力隊との連携強化



# 篠山イノベーターズスクールを通しての起業

- ・受講生：190人 → 39名（約2割）起業（17名（2021年）移住）

	受講生	起業者（うち市内）	
		うち	篠山外
1期（2016年10～2017年9）	19	13	6(5)
2期（2017年4～2018年3）	23	16	9(6)
3期（2017年10～2018年9）	17	10	5(3)
4期（2018年4～2019年3）	33	25	7(6)
5期（2019年4～2020年3）	35	24	5(4)
6期（2020年4（9）～2021年3（5））	28	23	2(2)
7期（2021年5～2022年3）	35	23	5(4)
計（重複のぞく）	190	134	39（30）

※複数回受講者による起業は、最終受講年にてカウント



## 廃校の活用

岸田 万穂さん

木工家。廃校を活用するNPO法人SHUKUBAの立ち上げ。



## カレー店の開業

東 千世子さん

丹波篠山市大山上にあったコミュニティカフェとして使用されていた建物を改装し、2019年7月にスパイスカレー「ヒマラヤンワルツ」を開店した。



## 自然療法サロンの運営

谷木 美智子さん

丹波篠山市西紀北地区で寒茶など地域資源発掘や草木を用いたアロマトリートメントを開発。



## 地域ブランドの立ち上げ

渋谷 啓子さん

地域らしさを追求したオリジナルブランド「篠山タータン」を発案し、事務局を設立。多様な主体と連携し、商品開発を実践中。空き店舗でのショップ開業を目指す。



## ベーカリーカフェの開業

児島 佳史さん

丹波篠山市東部に位置する日置地区にて、ベーカリーカフェの開業を果たした。

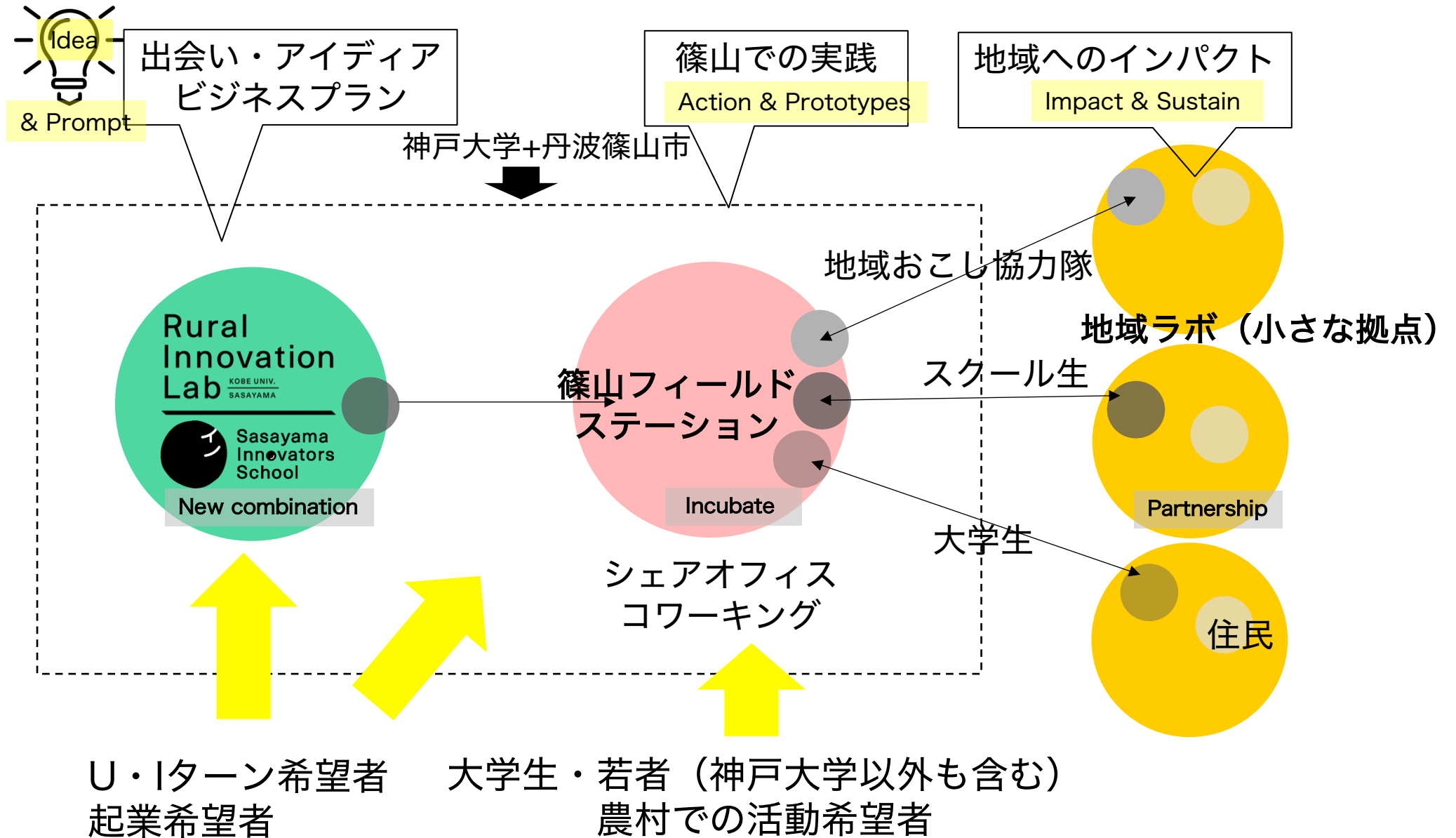


## 農業を継業×映像制作

橋本 豊彦さん

篠山市の最北端にあたる草山地区で、農業と映像制作の仕事に携わっている。農業では、米や黒豆、粟などを栽培し、映像制作では自治体関連のPR動画や地元のイベントの記録撮影など大小さまざまな仕事を請け負っている。

# 目指す起業・移住の支援システム



# 他地域への展開

神戸農村スタートアッププログラム

神戸の農村で  
新しい未来を  
創る人のための  
プログラム。

## 神戸 農村

START UP  
PROGRAMME

BE KOBE

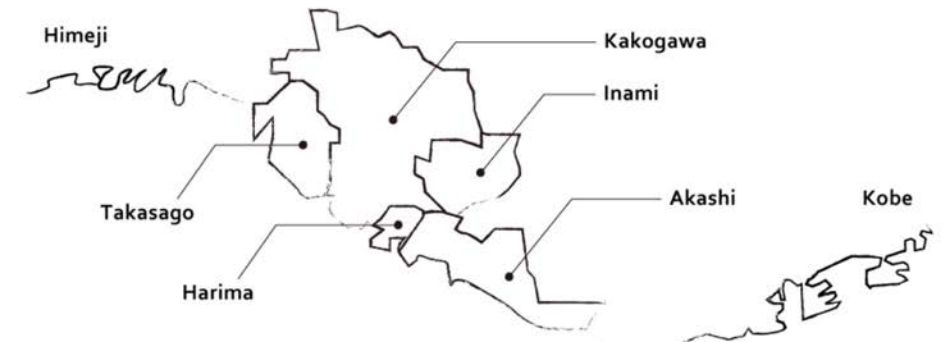


神戸農村スタートアッププログラムは、神戸市の農村地域（北区・西区）での起業や事業づくりに特化した、創業支援プログラムです。

### プログラムの特徴

地と知と志	3つを柱とした学びとワークを組み合わせた実践的なプログラム
現場に直結	そのまま創業に繋がる地域理解とネットワークが得られる
週末だけで受講できる	月に1回、土日に集中開講。会場は新神戸駅からも近く、遠方からの受講に配慮
農村スタートアップ	ビジネススタートアップでなく、農村スタートアップを考える
多様な関わり方を推奨	移住・二地域居住、農や食からツーリズム、環境、ITビジネスまで
実現までサポート	現場に通じたメンター、コーディネーターが創業の実現までサポート

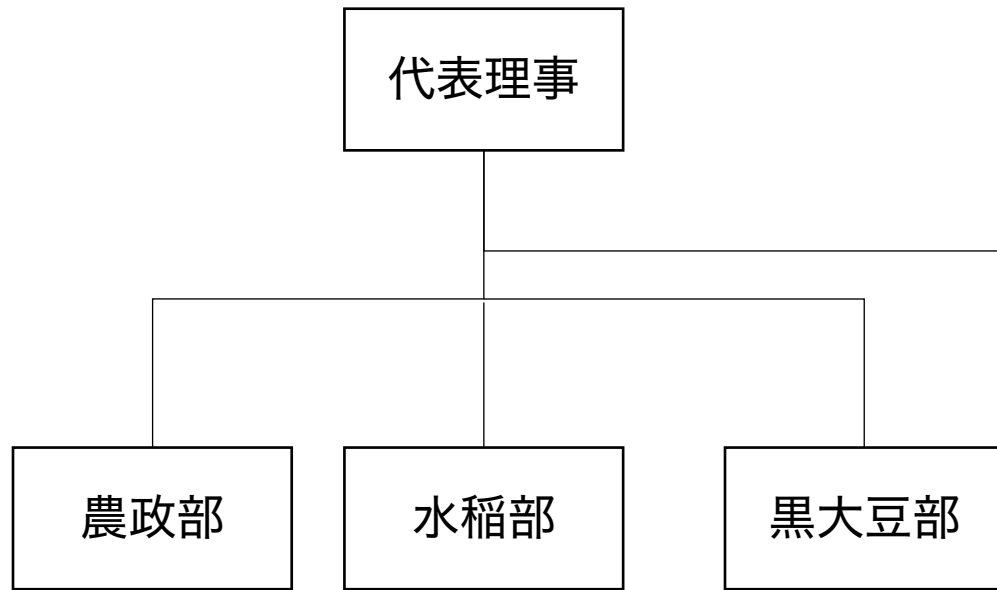
## 東播磨のレジリエンスを高める



## MISSION



# ある“先進的”集落営農の“危機”



```
graph TD; A[前代表理事] --- B[都市農村交流部]; A --- C[加工部];
```

前代表理事

都市農村交流部

加工部


## 存続の危機

200人以上の交流者 特産品づくり/農家レストラン

兵庫県・農村ボランティア

↓かえるの会、くうねる会、米つくろう会

都市部のまちづくり協議会、中学・大学



廃止？独立事業部化？

誰がやるか？  
どのようにするか？

# 一般公募のトライ：地域おこし協力隊として

農業に関心のある  
皆様へ

農産加工と交流の  
起業をしませんか？

が進めてきた農産物の加工と、  
都市の人びとと地域の交流を引き継ぎ、  
古民家を活用した拠点を活かして、  
新たなシゴトづくりに挑戦する人、募集！

## 求める人材のイメージ

- 農産物の加工・交流部門を、継業（事業継承）して、ビジネス化したい人
- 交流拠点づくりを進めたい人
- 地域と協力して事業を進めることと農業に関心がある人

## 特徴

- ① 加工できる地域の産品は既にいろいろあります。  
竹メンマ（塩漬け）、梨（ジャム、シロップ漬け）、赤じゃが、黒豆、トマトなど
- ② 加工所・交流拠点スペースとして「**古民家**」が使えます。  
加工用キッチン、居住スペース（管理人として居住も可）、インターネット接続、ピザ釜
- ③ 地域おこし協力隊制度が利用できます。  
現在、都市部在住の方は、**移住を伴う場合**、2021年4月から地域おこし協力隊制度を適用可能な場合があります（原則1年、最大2年）。適用可能となった場合、活動資金を得られます。



## ロードマップ

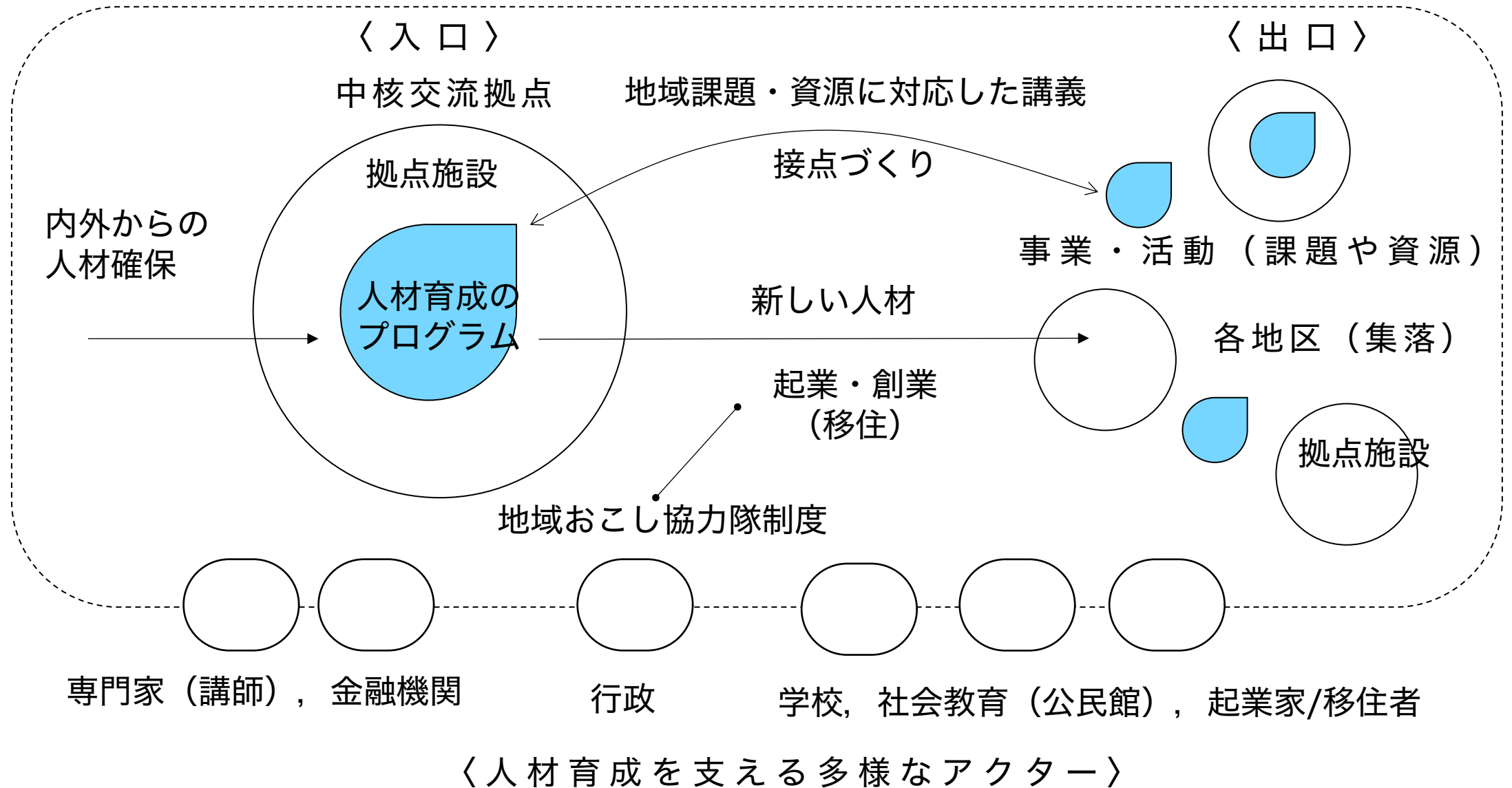
- 【1年目】 地域を知る、地域資源の再整理、試行、ビジネスモデルの構築
- 【2年目】 事業の継続実施、体制強化、定着への準備

## 受け入れ団体について

2021年度より  
地域おこし協力隊として営農組合に参入

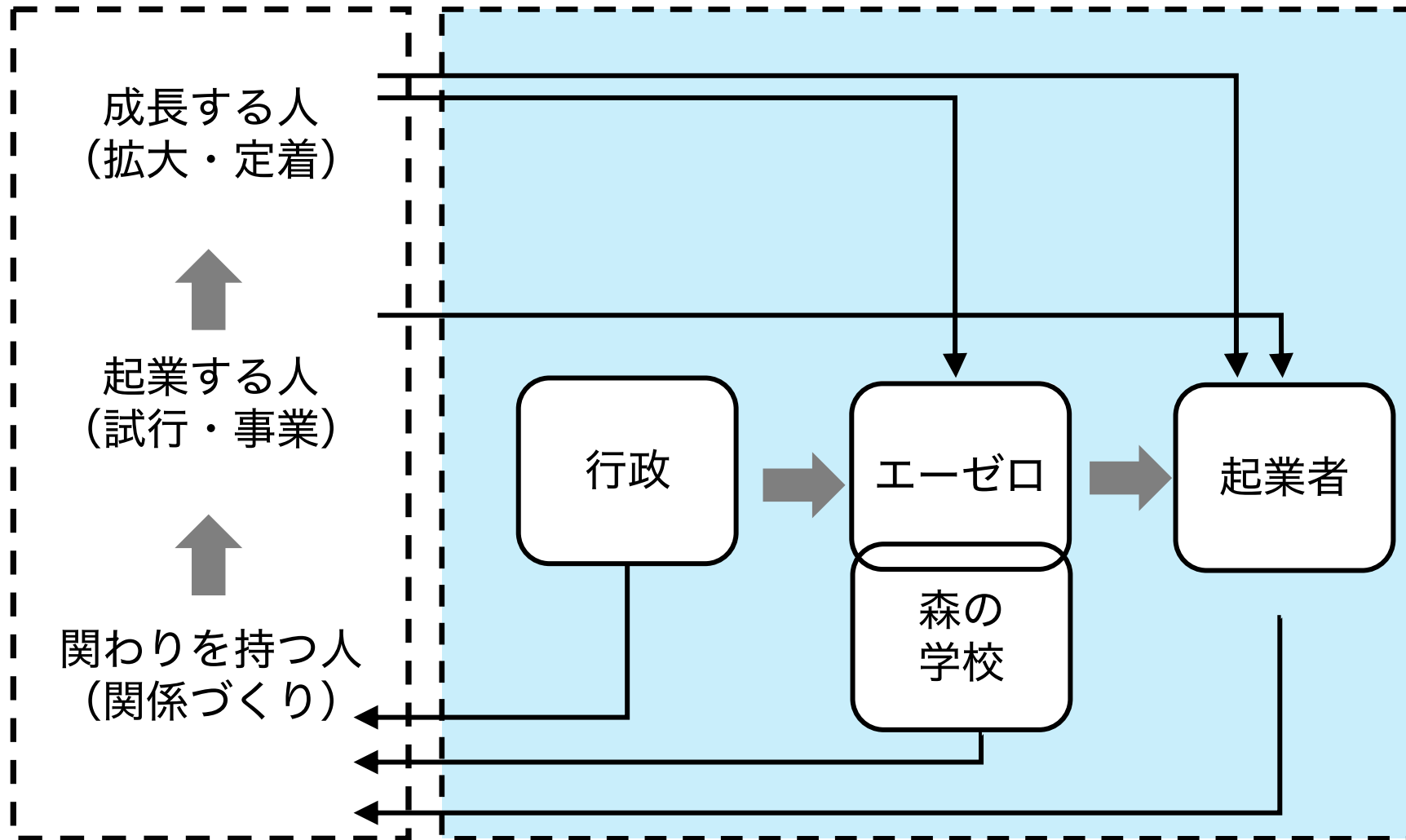
募集期間 2020年8月28日（金）～9月30日（水）

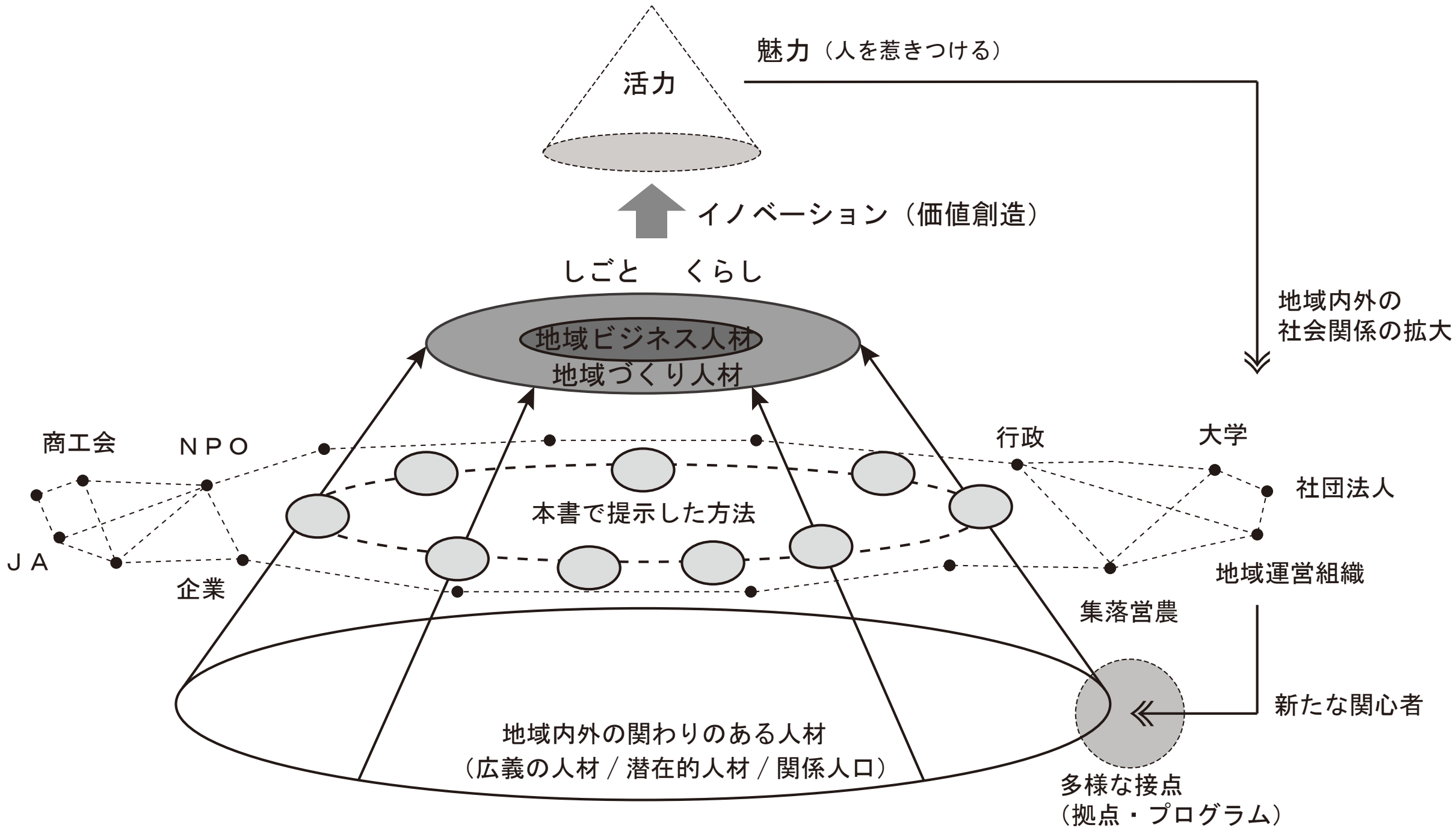
# 人材育成プログラム（丹波篠山市にみる人材育成の仕組み）





# 起業連鎖の構造 (西栗倉村にみる起業促進の仕組み)





# “地域の人事部”の必要性

- エコシステム構築において、行政や大学の果たす役割は大きい  
+ベンチャーキャピタルも必要  
(地域/農村では人材を管理する明確な主体は存在しにくい)
- 地域に関わる全ての主体が自律的につながり、相互に連携しながら人を育てることが望ましい。  
“エコシステムをつくる”という意識

※ただし、理念として：

人々が地域に関わることで幸せを感じることに

地域と関わることでキャリアを豊かにすることに

→“人材”側に立って寄り添う →エコシステムの核